

## 解 答

問1 エ 問2 ア 問3 ウ 問4 エ 問5 品種改良

問6 (1) イ→ウ→ア

(2) 田おこしにかかる労力や時間を減らすことができるようになり、作業が楽になった。

問7 秋田

問8 (1) 減反

(2) 食生活の変化などによって、米の消費量が減少する一方、機械化などにより米の生産量は増加した。この結果、つくった米があまるようになってしまったから。

(3) エ

問9 上位5都道府県でも作付面積は減少しているが、減り方は全国と比べて少なく、いずれも半分以下にはなっていない。

問10 イ

問11 北海道の米の収穫量は全国一ではあるが、その生産額は北海道の農業生産額全体の約1割にすぎず、稲作が北海道の農業の中心となっているわけではない。

問12 イ

問13 (1) ウ (2) 大都市に新鮮なまま届けやすい地域で、生乳がつくられているから。

問14 (1) ア (2) ウ

問15 神奈川県は、東京都に隣接し、県内にも横浜市、川崎市などの大消費地があるため、輸送費や鮮度の面で有利な近郊農業を行っているから。

問16 孺恋村などでは、高原のすずしい気候を利用して、時期をずらした栽培が行われているから。

問17 エ

問18 この50年ほどで食生活が洋風化したため、全体にしめる米の割合は低下し、野菜の割合が高くなった。また、北海道の畜産、神奈川県の野菜、新潟県の米、山梨県の果実のように、各地の特性をいかした農産物の生産に力が入れている。

## 解 説

問1 板付遺跡は福岡市にある遺跡です。弥生時代の水田の跡や、穀物を貯蔵した穴が発掘されました。

問2 ア 弥生時代には、水田耕作に水を利用するため、水辺の低地に集落がつくられました。小高い丘の上で暮らしていたのは縄文時代です。

問3 ウ このような方法で土をいれかえることを流水客土といいます。流水客土は富山県の黒部川流域で行われたものが知られていますが、江戸時代ではなく昭和時代のことです。

問4 アは干鰯（ほしか）、イは油かすとよばれます。エのクジラの油は、農薬として用いられました。水田に油を注いで、イナゴなどの害虫を駆除しました。

問6 (1) イ くわの先端に鉄製の農具がつけられています。鉄製農具は渡来人によりもたらされました。

ウ 牛や馬を用いて耕作することは平安時代の終わりから鎌倉時代にかけて広まりました。

問8 (2) 第二次世界大戦中、食糧不足が続いたため、生産された米を政府が買い上げる食糧管理制度が設けられました。戦後もこの制度が存続しましたが、1960年代後半に豊作が続いたため、政府が買い上げた米が売れずに余るようになりました。その結果、米の作付面積を制限する減反政策がすすめられるようになりました。

(3) ほかの作物をつくることを転作といいます。政府は、麦・だいず・牧草などを転作した農家に補助金をあたる形で転作をおすすめしました。

問11 北海道は米の生産量・作付面積ともに日本で有数の都道府県ですが、農業生産額にしめる割合でみると畜産や野菜の栽培の方がさかんであることがわかります。

問15 近郊農業は大都市の近くで生産し、輸送費をあまりかけず、新鮮な状態で作物を出荷できる利点を生かせる農業です。東京に隣接していることや、県内にも百万都市である横浜市や川崎市があるため、近隣に大消費地が多いことが、神奈川県で近郊農業として野菜の栽培に力が入れられることにつながっています。